

デザイン活用による高付加価値化支援 ④

企業とデザイナーの連携を経営革新等の施策でバックアップ。
建設業者の食品加工事業への参入を軌道に乗せる。

支援先企業と支援機関

鹿児島県

支援者

鹿児島県商工会連合会

相原 俊一 氏

デザイナー

企業概要

株式会社 竹之内組

- 建設業、加工食品製造・販売
- 資本金：1,500万円
- 従業員：6人

支援概要

◆企業概要と支援の経緯

支援企業は、平成23年4月に垂水市活性化協議会から、同会が製造・販売に取り組んでいた「いんげんの乾燥ポタージュスープ」の使用認定を受けた。垂水はいんげんの出荷日本一を誇っており、地域経済活性化を目的に企画された事業だったが、商品開発の段階で事業は終了していた。竹之内社長は、垂水活性化と雇用創出に貢献したい思いから事業化を推進すべく引継いだ。本業の建設業と全く違う分野であり、今後の事業展開に関して思案していた。そんな折、当時広域指導センターの広域担当経営指導員であった相原氏が、垂水市商工会訪問時にこの話を聞きつけ、経営革新計画の作成を通じて事業の具体化を図ることを勧めた。竹之内社長と奥様の敬子さんは相原指導員の支援の下、積極的に経営革新に取り組む、9月末には経営革新計画の承認を得た。

◆経営課題へのアプローチ・支援手法

相原指導員は、経営革新計画策定支援と並行して、エキスパート指導やネットワーク強化学業の専門家派遣、経営革新塾などを多数駆使して、味などに多くの問題を抱えていた「いんげんポタージュスープ」の再開発、ネーミングやパッケージ、POP作成・販路開拓指導など既存商品に関する支援と、経営革新計画に盛込んだ新商品の開発支援を矢継ぎ早に行った。料理研究家の上蘭氏の指導もあり、平成24年9月に、地元の野菜を使った、いんげん、赤ピーマン、赤しその鮮やかな3色のドレッシング「ドレソース」が完成した。

その間相原指導員は、山形屋でのイベント販売の支援など販路開拓支援を継続した。「かごしまの新特産品コンクール」へのエントリー支援では、平成23年秋には「いんげんのポタージュスープ」が奨励賞を、平成24年秋には、「かごしま農産加工品コンクール」で「ドレソース」が優秀賞を受賞、商品の良さが広く認められるようになっていった。ソラシドエアも「いんげんのポタージュスープ」に目を留め、機内販売を持ちかけてきた。オリジナルパッケージを開発して、平成25年10月から販売が開始されている。

デザインに関する支援は間接的に行われた。支援企業は、平成23年12月から国交省事業で紹介されたデザイナーの船附氏と「たるみず畑」ブランドの構築に取り組んでいたが、相原指導員は同事業終了後のデザイン開発を支えた。船附氏を専門家登録してネットワーク事業で専門家派遣したり、県の経営革新補助金申請によりデザイン費用を手当するなど、船附氏の支援を円滑に運ぶ側面支援を行った。

とりわけ助成金の獲得支援はブランド開発に大きく貢献した。助成金を活用して、シェフが作った「いんげんのポタージュスープ」を使った料理をプロカメラマンがスタジオで撮影するなど、質の高いビジュアルを得ることができた。これらのイメージ写真を使いリニューアルしたHPは「平成24年度鹿児島ホームページ大賞」で賞を受賞、「たるみず畑」の知名度も上がった。中小企業は写真に費用をかけたがらないことが多いが、船附氏は「写真のクオリティは絶対必要」と譲らず、支援企業も船附氏を信頼したことが良い結果を生んだ。



同社のHP画面。加工食品に関しては、商品そのものよりも、それを使った美味しそうな料理の写真の方が購買欲をそそる。

◆支援成果

経営革新で取組んだ食品加工事業の売上は、平成24年度7月期には250万円（前年度の5倍）、平成25年度7月期には500万円と順調に伸びてきたが、今期は12月までの5ヶ月で550万円となっており、通期で1千万円を超す見込みである。また、加工のために従業員2名の雇用を果たした。

間接的な成果も出た。地域に新たな事業をもたらしたと雇用を創出したことで、商工会の支援力が垂水市から評価されるようになってきた。また、商工会青年部長であった竹之内社長が経営革新に取り組む成果を上げていることを受けて、地域の若手経営者の間に、経営革新の輪が広がりつつある。

支援プロセス

相原指導員は、経営革新計画を軸に、事業化に必要な支援を順次行った。商品開発、販路開拓、デザイン開発支援など、必要に応じて派遣した専門家は、料理研究家、コピーライター、POP等販促や販路開拓の専門家、そしてデザイナーと幅広い。デザインそのものに関しては、船附氏と奥様の敬子さんの担当と心得、自身は、モニタリングにより課題や進捗状況を把握して必要な支援をタイムリーに行った。多い時には、週次でモニタリングを行っている。

このような集中した支援と、臨機応変な支援手法の組み合わせが、当支援のプロセスを特徴づけている。

フォローアップ

ポタージュスープは、食材を農家から仕入れ、後は委託加工となるため、支援企業は「ドレソース」など、自社で加工が可能な商品を増やしたいと考えている。相原指導員と垂水市商工会では、平成24年度補正予算の「地域力活用市場獲得等支援事業の新商品新サービス開発支援事業」への申請を支援し、昨年9月に採択された。企画した新商品の「いんげんを使ったお菓子」は、試作品を開発中である。その他、県の経営革新計画補助金の更なる申請や、いんげんの自社生産に取組むための6次産業化計画策定、平成26年度に予定されている小規模事業者活性化補助金の申請など、多くの支援計画が控えている。



写真上：ソラシドエアに採用された機内販売用パッケージ。船附氏のデザインが好評を博している。

写真左：船附氏のデザインによる「ドレソース」のラベルやポスター、ギフトラッピングペーパーなど。



写真左から：鹿児島県連 相原経営支援課長、デザイナーの船附氏、奥様の敬子さん、竹之内社長。奥様と船附氏の女性ペアが「たるみず畑」の柔らかなブランドイメージを構築してきた。

注目ポイント

- ① 支援企業は地域に溶け込み、食材を提供する生産農家とも固い絆で結ばれている。社長と奥様は、垂水の地域活性化を願って事業を推進している。
- ② デザイナーは、個々のデザインを始める前に「ブランド戦略の企画書」を提示し、支援企業の同意を得た。ブランド構築の見取り図があるため、ロゴ作成、スタジオ撮影、ポスター制作などの必要なアクションに連続して取組むことができ、効率よく早期にブランドが構築できた。
- ③ 指導員は、支援企業のモチベーションを支えるというポリシーで支援している。支援企業の積極性に応える形で、多彩な支援メニューを矢継ぎ早に繰り出す。必要な支援はするが、主体はあくまでも企業と捉え、「おんぶにだっこ」的な支援は行っていない。

支援機関としての取組み（体制等）

鹿児島県の商工会・商工会連合会では、10の広域指導センターを設け、高度・専門的な支援は広域センターの広域担当経営指導員が中心となって行っている。県連は各広域指導センターと連携し事業の管理・統括を行いながら、高度な支援にも対応する「中央・地域連携型のシステム」である。

鹿児島のように、各地域へのアクセスに時間がかかり、かつ地域ごとに特徴のあるようなエリアでは、地域内の隠れた魅力を持つ企業や、やる気のある小規模な事業者を商工会の経営指導員が発掘する「地域密着型支援」を前提に置く連携型のシステムが適している。

